

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271101638
法人名	株式会社 ボンジュールひうら
事業所名	グループホームボンジュールそとめ
所在地	長崎県神浦丸尾町1180-3 (電 話) 0959-29-8471
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成20年 8月26日

【情報提供票より】 (平成20年 4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 4.4人

(2) 建物概要

建物構造	セメント瓦葺き 造り
	2階建ての 1 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	71,880 円	その他の経費(月額)	350 円	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (8月26日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	71 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	外海弘仁会 日浦病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは穏やかな入り江沿いの集落到ち立地している。地域の行事だけでなく日々の生活の中でも地域との関わりが強く、「地域密着型」として十分な役割を果たしているホームである。利用者は日々気ままな生活が出来き、自由がきくと喜ばれている。職員や利用者同士の会話が家族のようなコミュニケーションができています。また家族は介護計画作成や各行事への参加、アンケートを実施し、家族と利用者の絆、職員との介護の共有がしっかりととれている。ホームもおもてなしの心づかいがされている。職員は利用者の尊厳を大切に、言葉遣いも穏やかである。各々介護目標をもって日々実践されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の外部評価を基に改善シートを作成し、ナースコールの設置、研修計画、居室の家庭的雰囲気など、職員、家族への理念徹底を段階的に取り組み改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	今回の自己評価は管理者を中心に作成し、全職員が回覧し意見の収集を行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月おきに開催されている。参加者はすこやか支援課・地域包括センター・老人会長・民生委員・日浦病院師長・利用者代表・家族代表・ボンジュール社長・ホーム管理者によって行われている。会議の議事録はすこやか支援課へ報告している。会議ではホーム活動報告・地域行事について・感染防止・事故防止について・苦情・勉強会の報告など細かく行われ意見の交換がされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族とは訪問時や電話連絡を行い逐一不安や意見を聞き入れている。また玄関に苦情ボックスの設置や年に1~2回無記名でアンケートを行い介護や利用者の生活の意見を聞き、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	ホーム周辺で行われる様々な行事、鯉こい祭り、小学校運動会の見学、棚田祭・案山子祭り、産業祭りに出かけたり、作品を出品したり積極的に地域との関わりをもっている。日常的な買い物や散歩は地域で行い顔見知りのつきあいがなされている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年より理念を継続し取り組んでいる。新人職員への理念浸透に努めている。今年は理念に含まれている「地域で安心した生活支援」をより深めることを目標にして情報発信を計画しているが、まだ実現に及んでいない。	○	インターネットのホームページの活用等、事業所からの地域への発信を促進し、一層の地域密着を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の取り組みの中で、管理者が職員へ理念に基づいた介護について話している。事業所は、尊厳・接遇研修や、地域との関わりを深める努力を行っている。職員も理念を理解しており、各自介護テーマを強く持ち実行している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム前の河川公園で鯉こい祭り、小学校運動会の見学、棚田祭りの見学、産業祭りにホームでの生活写真や利用者の書道の作品を出品。神浦散歩未知の参加も検討している。かかし祭りの見学から、かかしを製作し参加をしようと検討している。運営推進会議参加者に書道の指導をお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を真摯に受け止め改善計画が実行されている。2階にナースコールの設置、研修計画、居室の家庭的雰囲気など。家族へは便りの編集後記へ理念を明記した。自己評価は、管理者が記入し後で職員へ回覧している。	○	次回は自己評価の各項目を作成する段階から職員との意見交換を行い作成することを期待する。また評価項目を職員の研修などに活用し、より高い介護体制を期待する。

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月おきに開催されている。会の案内葉書を出し、運営推進会議の議事録はすこやか支援課へ報告している。会議ではホーム活動報告・外部評価の報告・地域行事について・感染防止の取り組み状況報告・事故防止について・苦情・勉強会の報告・身体拘束禁止の取り組みの報告など、毎回議題を変え行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議へすこやか支援課・包括支援センターに参加してもらっている。集団指導・ケアマネージャー研修・感染についての研修・高齢者虐待防止シンポジウム研修等市の研修に参加。手続きについても、分からないときは都度都度電話で尋ねている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2008年8月から外出外泊許可証に、ホームと家族との連絡簿を設け、細やかな外出支援がなされている。金銭管理の家族へ領収書・報告がなされている。職員異動は、訪問時に話をしている。家族と情報交換は、訪問時や各行事後、サービス担当者会議に行っている。受診については、随時電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年に1・2回アンケート用紙をに送付し、積極的に家族の意見を取り入れている。詳細は職員間で話し合いがなされている。玄関に意見箱を設けている。また外部苦情窓口にも老人会会長が明記されている。重要事項説明書が準備されていないため、他外部機関の確認ができない。	○	重要事項説明書作成時には、ホーム窓口の他に、外部窓口として、老人会、長崎県・市の相談窓口の表記も期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの重要性を理解しており、職員補充のための関連グループ内の異動は、期間を持って行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ全体の研修計画で、接遇について研修を受けている。介護保険研修・感染症対策・高齢者虐待防止シンポジウム等へ参加し、全職員へ資料の配付、報告を行い、特に重要な物は月のミーティングで勉強会を行っている。月末に病院長の訪問時にも勉強会をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームからの見学など自由に受け入れる体制ができています。ケアマネジャーの連絡会・グループホームの連絡協議会へは参加していない。職員同士の交流も日浦病院のグループ内だけである。グループ全体では交流が行われている。西海市が近いが交流はなされていない。	○	同業者との交流の中で、情報交換・勉強会・職員の交流など他の空気を取り入れ、活性化につなげることを期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からや居宅サービスの紹介で利用者と家族が見学・泊まりを体験し納得後利用開始している。その際、パンフレット・食事のメニュー紹介・料金・受診について説明を行っている。利用者の生活歴や情報収集を行い、馴染みの物を持ち込んで溶け込めるようにと家族と話しあっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話の中で「辛抱は金」等格言が多く語られ、生活の知恵や季節のこと、食事づくり・節約について学んでいる。利用者から職員のことを思いやりの言葉がけがあり嬉しく思う場面があり、共に思い合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食べたいものや要望等、利用者の意見を聴いている。入浴や買い物等出来るだけ柔軟に対応している。言葉に出すのが困難な場合、日々の関わりの中で個々に応じて気がけている。介護記録実行表に個人記録がなされ、職員全員が共有できるようにしている。ミーティングノートで申し送りを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、利用開始して1・2ヶ月慣れるまで様子を見ている。その間家族からも情報を得ている。月末のケアプラン会議を行い、全利用者のモニタリング報告を行っている。またケアプラン作成時には、サービス担当者会議をおこない、本人と家族の要望意見を聞き、長期短期プランを作成し同意を得、作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常6ヶ月期間で見直しを考えている。ADLの変化や、体調より状況の変化で早めた例もある。サービス担当者会議メンバーは職員・家族・本人、家族が参加できない場合は電話で同意得ている。院長には週に一度往診の際に報告している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望で地域住民と関わりながらの祭りへの参加や、日常的な散策など行っている。また生活面では、いつでも風呂に入れたり、食事や日常行動が自由に行えるよう支援している。家族との絆を絶やさないため外出支援や、メッセージカードの作成、家族の家での写真や、友人の写真など掲示を手伝っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は日浦病院へ通院しているが、入所前からの継続受診・通院も支援されている。職員が同行しているが、医師より症状について説明が有る場合家族に連絡して同行してもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りは行っていない。入所時に家族への口頭の説明がされている。様態が急変した場合、受診後に家族に話をしている。終末期・看取りに関する書類が準備されていない。	○	重度化・看取りに関する方針を作成し、利用者・家族の同意サインまでであることが好ましい。重要事項説明書作成し、重度化・看取りの方針まで明記することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を重視し部屋のノックを忘れずに行い、おむつの処分や失禁を他の利用者へ分からない様に対応している。このことはミーティングでも意識を統一されている。新人や職員同士、尊厳やプライバシーについて気付いたときに注意しあっている。また守秘義務を徹底し書面も確認できた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれに起床している。起き上がれない利用者には声かけを行っている。入浴の拒否などは穏やかに声かけを行い誘導方法を試している。業務日誌の記入は利用者の言葉を記入し、以後のコミュニケーションに繋げている。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握している。嫌いなものは献立表に別メニューへ切り替える工夫が見られる。利用者は箸をつかい個々のペースで楽しみながら食事をしている。検食を兼ねて職員も利用者と共に食事をし、見守りを行っている職員も共に会話を楽しみながら食事のケアを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は昼間は曜日にこだわらずいつでも入れるよう準備されている。利用者が入浴を拒まれたら、言葉を変えて誘導し入浴に向けて支援している。洗浄（シャワー浴）は毎日行っており、湿疹や皮下出血等全身チェックしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の手伝い・カレンダーへ天気の記事・楽のみ集めなど役割を発揮できる場面作りがなされている。外にテーブルを設け、おやつや食事を楽しんでいる。天気や体調が良いときは散歩にでかけ、季節感を楽しんでいる。生活歴の把握も記録され職員同士共有している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者全員でエスポワール催しの参加・花見・ドライブ・田植え、あちこちへ行きたいと希望される方や、入院が長期でその後入所された方、車椅子の方等ドライブへ同行している。また出かけない日は庭で食事会をし日光に浴びるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける事への弊害について勉強会を行っている。部屋は鍵はかかっている。玄関は夜のみ施錠がされ、昼間は開放されているが、出入りの時、センサーでチャイムが鳴動するが頼り切りにしてはいない。		

認知症老人グループホーム ボンジュールそとめ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防避難訓練を行っている。消防署の協力を得て、20年3月には心肺蘇生法訓練を行った。自治体や近隣の住民に協力を依頼している。連絡網や緊急マニュアルは作成されている。避難用具・受入れる同グループの体制も整っている。夜間想定、一人での誘導訓練も行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事摂取量・水分量の記録が有り、特に熱発時の水分補給に気配りしている。水分摂取記録は牛乳・ヨーグルト・夜間の飲料については記録されている。管理栄養士による献立表でバランス良く摂取している。好みについてもひとりひとり気配りし工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然が豊かで静音の中で生活している。朝の換気は快適に気持ちよくなされ、夕刻の西日にはカーテンの調整で気配りされている。リビングでの利用者の座る位置についても、車椅子の方や全体のバランスを検討しながら位置を決めている。廊下には、訪問される家族が喜ぶように人形や花が置かれている。全体の話し声が明るくコミュニケーションの良さがうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室およびリネンは清潔に保たれている。部屋には、家族や友人、行事参加などの写真をアレンジして飾り付けられている。身体の気配りとしてベッドの位置を工夫し、安全のため床にマットを敷いたり工夫されている。部屋には使い慣れた身の回りの物が置かれ、部屋全体に明るいイメージがする。		

※  は、重点項目。